

教頭の小部屋

2021.6.23 巻の6



三田市総体に向けて

①大会参加に向けて

コロナ禍において、最近物議を醸しだしているオリンピック。オリンピック精神にはこんな有名な言葉がある。「参加することに意義がある。」。その時代の社会情勢などもあり、いろいろな意味合いがあるかもしれないが、私は様々なことを犠牲にして一心に競技に取り組んだ結果、国の代表となった選手たちに送られる賛辞であると考えたい。しかし三田市総体はオリンピックではない。出場すること自体にももちろん意義はあるが、どうせなら出場できなかった部員や後輩たちのためにも、やはり勝ちにこだわらなければ。勝負の世界で勝ちにこだわらないのは嘘である。だからこそオリンピックに出る選手たちも、金メダルを目指すのだ。勝利を目指して懸命にプレーし、勝利すればよし。たとえ敗退してしまっても、それはただの結果であり、試合に至るまでの過程は何も変わらず、君たちを成長させる糧となっているはずだ。勝利への思いをチームで共有し、力に変えるのだ。願わくは、丹有大会、県大会へと勝ち進むことを願う。がんばれ。

②爽やかな大会に

十数年前、壮行会でこんな話をした校長先生がおられた。「優勝旗を持って帰ってきてください。そして、もう一つ。マナーの優勝旗を持って帰ってきてください。それは目には見えないけれども、もしかしたら優勝旗よりも価値があるかもしれない。来週月曜日。それぞれの手にマナーの優勝旗を握りしめて登校してきてください。期待しています。」。

各校の顧問の先生や他校生が「あんなチームになりたい。」と狭間中を目標にする、そんなチームであれ。君たちの力で、爽やかな大会にするのだ。

③最後の大会に臨む3年生へ

君たちの周りには、支え励ましあってきた仲間はもちろん、汚れたユニフォームを洗い、早朝よりお弁当を作り、会場までの送迎をしてくれた保護者がいるはずだ。自分を支えてくれた人たちへの感謝を忘れてはいけない。感謝の気持ちを持って試合に臨むのだ。そしてもう一つ、最後の大会に臨む君たちには、大切な役目がある。それは勝利に喜ぶ姿、また敗退に涙する姿、そして清々しく引退していく姿を、後輩たちに見せることだ。そんな君たちの姿を目に焼き付けた後輩たちには「来年は・・・。」という火種が心にともるはずだ。スマートでなくてもいい。泥臭くてもいい。握りしめたバトン、後輩たちにしっかりと手渡すのだ。勝利だけが価値のあるものではない。勝利を目指した敗北にも必ず意味があるのだ。3年生に言葉を贈る。

一生懸命頑張って勝つことは素晴らしい。

二番目に素晴らしいことは、

一生懸命頑張って負けることだ。

高めろチーム力！恐れず挑め！